

保育者養成校における図画工作の授業のあり方

——「苦手意識」を「楽しさ」に変える授業の模索——

金 子 忍*

The Ideal Way of Drawing and Crafting in Childcare Worker Training Junior College

——Searching for Lessons That Turn Weaknesses into Fun——

Shinobu KANEKO

Key words : 幼稚園教育要領 The National Curriculum for Kindergarten, 造形表現 Modeling expression, 苦手意識 Awareness of weakness

I はじめに

38年間にわたる幼稚園現場での教員生活を終えた後、乳幼児教育保育支援センターの乳幼児教育保育アドバイザー、新規幼稚園教諭指導講師等を経て、本年度から短期大学保育学科において、保育者を目指す学生の実習や図画工作にかかわる指導を担当している。

幼稚園での教員生活を振り返ると、子どもたちは教師との信頼関係に支えられ安心できる空間において、興味や関心をもった遊びを思う存分展開していたことが強く印象に残っている。保育室の製作コーナーでは、集めて分類されたいろいろな素材に触れながら、思い思いにつくりたいものをつくったり、つくったものを使って遊んだりしていた子どもたちの姿があった。保育室の後ろに設置された棚には、空き箱や空き容器で作ったものが並び、また、各々の道具箱の中には、折り紙や広告紙で折ったり切ったりしたものが宝物として大切にしまわれていた。「今日は、〇〇しよう」と、目を輝かせて登園していた子どもたちの姿が思い出される。一緒に登園される保護者も、毎日のように空き箱や空き容器を大きな袋に入れて持たせてくださっていた。

幼児は、日々の生活の中で、身近な環境に興味や関心をもって働きかけ、思い思いに感じたことをいろいろな形で表現して楽しむ。一人の幼児の発想が、池に小石を投じたように周囲の幼児に広がっていくこともある。そのことに気付く保育者の存在が、周りの幼児に、学級に、そして園全体へと遊びが広がる可能性へとつながってい

く。長時間にわたって生活を共にしている保育者が、幼児の興味や関心に心を寄せ、いかに思いの実現にかかわっていくかが重要であることを窺わせる。

園生活が年度後半に入ると、4歳児と5歳児は日頃遊んでいた製作物を戸外に持ち出すなどして、「お化け迷路」「忍者修行」「お化けトンネル」「恐竜迷路」等と名付けながら、その学年の子どもたちの興味や関心の高まりに応じた遊びが園全体で展開されていく。その中で、4歳児は、遊びをリードする5歳児の姿にあこがれの気持ちをもつようになる。自分たちが5歳児になったら「年長さんのように〇〇しよう」と、無意識のうちに心に秘め溜め込んでいく。その気持ちは、進級と同時に蘇る。また、5歳児は、4歳児を遊びに誘い、随所で年長児らしく親しみの気持ちをもち関わる姿を見せる。園の年長者として遊びをより楽しくなるように友達と一緒に工夫し考えを出し合うようになる。園の遊びの文化が継承され、保育者自身も「今年はどんな遊びが始まるかな」と期待しながら見守る日々が続いていく。

まさに、幼稚園教育要領（第1章 第2節 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10) 豊かな感性と表現）に示された「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる」¹⁾ 姿そのものと言える。

幼稚園教育要領解説に「幼児期の経験は、小学校の学

* 広島文化学園短期大学保育学科

習において感性を働かせ、表現することを楽しむ姿につながる。これらは、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地になる。また、臆することなく自信をもって表現することは、教科等の学習だけではなく、小学校生活を意欲的に進める基盤ともなっていく²⁾とあるように、子どもたちが幼稚園での経験を基に、小学校生活をどのように過ごし成長していくか、幼稚園段階から小学校段階への育ちの接続という視点も見逃せない。

また、幼稚園教育要領の第2章 第2節 各領域に示す事項 感性と表現に関する領域「表現」の冒頭には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」³⁾とある。豊かな感性や自己を表現する意欲は、幼児期に自然や人々など身近な環境と関わる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことによって育てられる。つまり、幼児期の日々の遊びや生活の中で感じたことを、友達や教師と共有したり表現し合ったりして豊かな感性を養うことが大切であるとされている。

これらのことについては、小学校学習指導要領においても「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」⁴⁾と、幼児期の遊びを通しての学びの大切さが述べられている。

さらに、小学校学習指導要領「図画工作」においては、「低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること」⁵⁾と、幼児期の育ちを踏まえた指導の工夫について述べられている。

平成30年4月に施行された幼稚園教育要領等において明確化された育みたい資質・能力及び「幼児期の終わり

までの育ってほしい姿」を発展させていくために、小学校以降の教育においても円滑な接続が図られるよう工夫すべきであることを示すものである。

本研究は、幼児期から児童期を通して育まれるべき表現の資質・能力の育ちを支えていく保育者としての有り様を、現在担当する第1学年「図画工作」の授業における学生の意識の変容のきっかけを探ることを通して明らかにしたい。

図画工作Ⅰ第1回目を実施した授業アンケートでは、絵をいかたりものをつくったりすることが「嫌い」「どちらでもない」と答えた学生が、3分の2程度いた。「図工・美術という教科について思っていること」では、「絵をかくことは好きではない」「苦手である」「人と比べてしまう」など、消極的な思いを記入する学生が多かった。これらの傾向を踏まえて、図画工作Ⅰのシラバスでは、学生自らが多様な体験を通して図画工作を楽しむための基本的な知識や技能を獲得することを目的とし、自分らしさを大切にしたい授業を行った。

こうした過程の中で、「好きではない」「苦手」と自分自身の表現に自信をもつことができない学生が、授業を通してどのように変容していったか、また、変容のきっかけとなった授業にはどのような要因が含まれているかを明らかにし、今後のより良い指導のあり方の追究につなげていきたい。

Ⅱ 研究の目的

- ・ 図画工作が「苦手」という意識から「楽しい」と感じ変容する内面を探る。
- ・ 印象に残った授業の魅力を探り、保育士養成校における図画工作の指導のあり方を探る。

Ⅲ 研究の方法

1 第1回授業アンケートと学修の最終授業の振り返りシートの分析

【分析の観点】

- ア 図画工作へのマイナスの意識について
- イ 図画工作への気持ちの変化
(マイナスの意識であったが「楽しい」「楽しかった」とシートに書いた学生について)
- ウ 楽しさを体験して感じたこと
- エ 印象に残った授業について
- オ 保育者を目指す学生としての意識

2 印象に残った授業の魅力の分析

- ア 「自己紹介ミニミニ絵本」の概要
- イ 授業計画及び授業の様子
- ウ 「自己紹介ミニミニ絵本」について、最終授業の振り返り

Ⅳ 研究の内容

1 第1回授業アンケートと学修の最終授業の振り返りシートの分析

第1回授業アンケートでは、設問（1～5）に答える内容とした。また、最終授業の振り返りシートは、自由記述で行った。

ア 図画工作へのマイナスの意識について

授業を受けるまでのマイナスの意識（第1回授業図工・美術という教科について思っていること）について、学生から次のような回答があった。

- ・ 人の作品はとても上手に見えるけど、自分の作品はどれだけほめてもらえても上手に思えない。また、どんなふうに表現したらよいか分からない。
- ・ 絵が苦手だから、あまり好きではない。
- ・ 上手、下手とか関係なくて自分の好きなように図画工作をしてもいいと分かっているけど、周りの人と比べてしまう。
- ・ 楽しいけど難しいな、できないなって思うことが多い。作ることは好きであるが、うまくないため自分の作品に自信がもてず、図工・美術を積極的にすることはない。

また、最終授業の振り返りシートには、次のようなマイナスワードが書かれていた。

- ・ 不安
- ・ アイディアが浮かばない
- ・ 苦手
- ・ 不器用
- ・ 楽しそうじゃない
- ・ 自分の作品に自信がない
- ・ 人に見られるのがいや
- ・ 難しい
- ・ 下手
- ・ 嫌い

＜考察＞

- ・ 第1回授業アンケートでは、図画工作への苦手意識の強さを表す言葉が多く見られ、大学生活への期待が膨らむ反面、授業への不安な気持ちがうかがえた。
- ・ どちらのシートからも「自信がない」「見られるのがいや」「苦手」などマイナスの言葉が出てきており、不安な気持ちを抱えながら授業を受けていることが分かった。
- ・ 「苦手」の意識では、「得意でなく苦手」「苦手意識が高い」「絵は苦手」と気持ちを表していた。特に「絵が苦手」と記述した学生が27人中4人と多く、図画工作において、絵画表現への「苦手」の意識が高いことが分かった。
- ・ 「人と比べてしまう」「見られるのがいや」「自信がない」など、本学の学生の課題である自己肯定感の低さ

が表れていた。

イ 図画工作への気持ちの変化

第1回の授業では、マイナスの意識をもつ学生が、最終授業の振り返りでは「楽しい」「楽しかった」とシートに書いていた。学生の人数及び割合は次のとおりである。

第1回授業アンケート	
項目	割合（人数）
好き	37.0%（10）
嫌い	26.0%（7）
どちらでもない	37.0%（10）

最終授業の振り返り	
記述	割合（人数）
「楽しかった」	29.6%（8）
マイナス意識→「楽しかった」	59.3%（16）
その他（欠席2名を含む）	11.1%（3）

＜考察＞

- ・ 第1回授業で「好き」と答えた学生は、概ね最終授業においても「楽しかった」と答えている。また、最終授業の振り返りでは、「嫌い」「どちらでもない」と答えた学生のうち、約9割の学生が「楽しかった」と記述している。図画工作Ⅰの授業を通して楽しさを味わったことがうかがえる。

- ・ 保育者を目指す学生自身が「表現する喜び」を味わうことは、将来、乳幼児と共に生活する中で、子どもたちの表現をかけがいのないものとして受け止め、共感する保育者となっていくと思う。そのことは、経験したことや感動したことを伝え合い共感することを通して、豊かな感性を育むことにつながると考える。

ウ 「楽しさ」を経験して感じたこと

最終授業の振り返りで、マイナスの意識から「楽しかった」に変容した学生の記述は、次のとおりである。

- ・ 作り始めると楽しくて、自分の表現したいことがたくさん出てきた。絵をかくことは苦手な、何かを表現することも変わらず苦手だけど、作っているときの楽しさや子どもたちに向けて作ることの楽しさは、真剣になりすぎていつも時間がすぐに来て、本当に楽しかったと改めて実感した。
- ・ アイディアが全く思いつかなくて、作るまでの時間がかかっていた。しかし、いろいろな作品を作っていくうちに、アイディアが浮かんでやすくなった。
- ・ 絵を描いたり何か製作したりするというのが苦手だった。でもやってみると集中して何かを作る時間が楽しくて、苦手意識を少し取り払うことができた。
- ・ うまく描けることが大切なのではなく、心を込めて描くことが大切だと分かった。自分が下手とかではな

く、やってみることが必要だと理解することができた。

- ・ 自分で作りたいものと考えたものを時間いっぱいかけて作るとは、自分の表現力も上がる他にも、どんどんアイデアが浮かび上がっていくことが感じられた。
- ・ 作ったりかいたりする楽しさを知ることができた。
- ・ 不器用だし、絵は本当に苦手なのに、調べたり見たり考えたりで、たくさん良い作品ができたと思う。
- ・ 楽しみながら作品作りをすることで、創作意欲ややってよかったと思うことができた。ただ作品を淡々と作るのではなく、夢中になって取り組めるような環境が大事なのだということがよくわかった。
- ・ 15回の授業を重ねていくうちに、楽しいなと思ったり、またこれしたいなと思ったりすることが多くなってきた。
- ・ いろいろな作品を作ったり、皆の前で発表したりすることが嫌でなくなった。私自身の中で変わって、自分の各作品や作る作品に自信がついたからなのだと思う。
- ・ イラストなど描く場面がたくさんあって、絵をかくことが苦手な私だけど、何だかんだ楽しく作品を作ることができた。
- ・ 前までは絵が下手だから図工でものを作ったり絵をかいたりすることが苦手だったけど、図工でいろいろな作品を作っていくうちに、絵をかいたり物を作ったりするのが楽しいと思うようになったし、前よりも絵がうまくなった気がした。
- ・ 今まで絵は苦手だったし、かく機会もあまりなかったので不安だったけど、授業を受けて絵をかくのが楽しくなった。たくさん作品を作って、そのたびに絵が上手になっている気がしてうれしかった。

<考察>

- ・ 「苦手」というマイナスの意識をもった学生が、楽しい経験を積み重ねることで、「表現したいことがたくさん出てきた」「またこれしたいと思った」など、表現することへの意欲が高まっていることが分かった。毎回の授業において、楽しさを感じる授業づくりが大切である。
- ・ 「前よりも絵がうまくなった」「絵が上手になっている気がしてうれしかった」など自分自身の変容に気づき、満足感や達成感を味わっていることが分かった。
- ・ 自分なりの表現を自分自身が認めることを重ねる中で、自己肯定感が少しずつ高まっていた。
- ・ Cラーニングによるオンライン授業のために十分な実技ができなかったが、スクラッチ、フロタージュ、コラージュなどの技法を知ることで、技能を身に付けて表現の幅が広がり、自分なりの表現に自信をもつことができるようになっていた。
- ・ 「楽しさ」を感じる条件として、「自分で作りたいも

のと考えたものを時間いっぱい作ること」「みんな肯定してくれる環境」「夢中になって取り組めるような環境」をあげており、十分な時間の確保、どの作品も肯定的に認め合える仲間や雰囲気、夢中になって取り組める環境づくりの大切さが分かった。このことは、技法の理解と併せて、豊かな感性や表現する力を養う上で、とても重要であると考ええる。

エ 印象に残った授業について（複数回答あり）

印象に残った授業については、次のとおりの回答だった。

内容や技法	人 数（人）
クレヨンとクレパスの違い	6
スクラッチ	2
ミニミニ自己紹介絵本	12
びっくり絵	8
フロタージュとコラージュ	3

<考察>

- ・ 前期授業15回のうち、4回目の授業から5回続けてCラーニングによるオンライン授業を行った。そのため、当初のシラバスで予定していた実技の回数が少なくなってしまった。そのような状況の中でも、3回の授業時間を使って行った「自己紹介ミニミニ絵本」の製作が一番印象に残ったと記述した学生が半数近くいた。
- ・ 「自己紹介ミニミニ絵本」に続き「びっくり絵」を挙げる学生が多かった。これらの題材は、図画工作Ⅰの後半の授業課題で、大学生活に慣れてきたこと、安心して課題に取り組める雰囲気ができていたことが考えられる。そのため、学生の表現意欲が高まり、意欲的に活動できたことがうかがえる。

オ 保育者を目指す学生としての意識

最終授業の振り返りシートには、自分の変容、印象に残った授業の他にも、実習に行った時や保育者を目指す自分の姿について思いを馳せ記述していた。また、自分が保育者となり子ども達の前に立つ姿を想像し夢を膨らませる言葉が書かれていた。次のとおりである。

- ・ リモート期間中は、なかなかうまく表現できなかったり作る時間が少なかったりしたけど、子どものための表現の仕方など、子ども目線に立って観ることできる貴重な時間だったと思う。後期も子どもたちや見ている人全員が楽しめるような作品を作りたい。
- ・ 前期に作った「自己紹介ミニミニ絵本」やびっくり絵は、実習の時などに使える機会があれば使いたいと思う。前期に学んだことをしっかり覚え、保育の現場に生かしていきたい。
- ・ 自分が思いつかなかった方法・やり方についてこの授業を通して学ぶことができたので、これからの生活

に生かしていきたい。

- ・ 図工は幼稚園ですることが多いので、図工の時間に学んだことを子どもたちに教えていきたいと思う。
- ・ クレヨン、クレパスを使ったこすり出しで、きれいなお花のような形をした作品作りが印象に残り、子供たちも楽しいと感じると考えるので、実習先の子どもたちにも楽しんでもらいたい。
- ・ 今まで、いっぱい考えて作品を作る機会がなかったが、この授業を通して、「子どもはどんなのが好きかな」や「子どもが注目してくれるのはどんなのだろう」と考える機会が増えた。生活していく中でも、どのようなものが子どもは好きなのか、しっかり考えていき、後期の授業で生かしていきたい。
- ・ この授業で作ったおもちゃは遊びは、しっかり覚えておいて、うまく活用できたらいいと思う。
- ・ 子どもたちが楽しむものを作って、実習や就職後にまた使って楽しませたい。
- ・ 絵をかくことや作品を作るのが楽しいと分かったので、実習に行ったときや自分が幼稚園や保育園の先生になったときに、これまでの絵をかく楽しさや作品を作る楽しさ、うれしさなどを子どもに伝えていきたい。
- ・ 自分が感じたことを、子供たちにも感じてもらえるような自分なりの保育をしていきたいと思った。
- ・ これからも、もっともっと工作を楽しんで作品を作り、保育者になるときは、今度は私が子どもたちに、工作をする楽しさを教えられるようになるまでの準備をしておきたい。
- ・ この授業で私たちが作った作品を自分が保育者となったときに思い浮かべて、子どもたちが楽しんで喜んでくれるような作品を作っていきたいと思った。
- ・ 保育士になって、造形遊びを子どもにも教えることができるのでよかった。自分でデザインを考えることはとても苦手だけど、保育士になるには、とても必要になってくことだと分かった。
- ・ 今までやったことのないものを作って、子どもが喜んでくれるのか、楽しんでくれるのか、そんなことをたくさん考えながら作った。今まで作ったものは、自分が先生になったときに子どもに教えることができ、自分でも楽しかったので、とても勉強になった。
- ・ 保育士になって絵を見せる機会があったときに、見えにくいと思う子がいてはいけなないので、色を濃くするように心がけたい。
- ・ 後期からも子供が喜んでくれそうな絵や物を作っていきたい。

<考察>

- ・ クラスの7割近くの学生が、授業の振り返りシートに実習や保育者となって現場に出たときの気持ちを記述していた。そのことは、図画工作の授業での学びを生かそう、出会う子供たちにも楽しさを伝えたいとい

う気持ちの表れである。「作品を作る楽しさを、うれしさを子どもに伝えたい」という言葉に、思いが溢れていると思った。

- ・ 子どもにも伝えたいという思いは、学生が技法や技術を身に付け、自信をもったことの表れであると思う。楽しさを誰かと共有したい、一緒にやってみたいという気持ちは、豊かな感性につながる感覚であると思う。

2 印象に残った授業の魅力の分析

ア 「自己紹介ミニミニ絵本」の授業の概要

本学の学生は、1学年において、教育実習Ⅰ、保育実習（施設実習）、2学年で保育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ、保育実習Ⅱを行う。いずれも10日間の実習である。どの実習においても、実習初日には、緊張しながら自己紹介をする。そのときに、本授業で作成した「自己紹介ミニミニ絵本」を活用することで、少なからず緊張を緩和することができると思われる。また、園児や保育者の方々に名前を覚えていただき、コミュニケーションのきっかけとなることを願い授業内容に取り入れている。

「自己紹介ミニミニ絵本」は、1枚の画用紙に切り込みを入れて絵本の原型を作る。この作り方は、いろいろな行事等において、しおり、歌集などのハンドブックとしても活用でき、就職後にも幅広く使用できる。

実習先での自己紹介は、自分の名前を知っていただく、また、覚えていただくことが目的となる。そのため、学生一人一人が自分の名前の一字一字について深く考え、自分なりのアイディアを出すことが必要であり、学生の個性が発揮される。また、先輩の作成した絵本を紹介することにより、自分なりに考えを広げたり、まとめたり、工夫したりすることができる。

共通する課題は、「文字の部分については、色画用紙を使用する」のみとし、それぞれの学生が、自分自身の発想を大切にしながら自分の考えを表現し、制作できるようにする。

授業で使用した材料は、画用紙（絵本の原型）、色画用紙、色鉛筆、フェルトペン等である。

イ 授業計画及び授業の様子

1時限 絵本の原型づくり、下絵

2時限 制作

3時限 仕上げ

（ア） 1時限 絵本の原型づくり、下絵

絵本の原型づくりは、どの学生も無理なく取り組むことができた。しかし、自分の名前から、頭字のつくものを考えることはなかなか困難で、スマートフォンで何度も検索し、また、描く素材が決まった後も、イラストを検索し描き写していた。先輩の絵本では、昔話のシリーズ、食べ物シリーズなどの工夫があり、そのアイディアを参考にしながら考える姿が見られた。名前全ての文字について、1時限では案ができ上がる学生は半数ぐら

で、自分の名前の一文字一文字について悩み、考え、一生懸命に出来上がりのイメージを膨らませていた。

(イ) 2時限 制作

1時限で制作の方向性が決まった学生は、すぐに絵本作りに取り掛かっていたが、考えがまとまらない学生は、1時限に引き続き下案作りに取り組んでいた。黙々と集中して取り組む姿が見られ、隣の席の学生と会話する姿はほとんどなかった。作品を持ち帰り自宅で続きをしたいと申し出る学生もいた。

(ウ) 3時限 仕上げ

ようやく席が隣同士、前後の学生と会話する姿が見られたが、ほとんどの学生は自分の作品づくりに集中し、2時限同様に黙々と取り組む姿が見られた。食べ物、動物、アニメのキャラクターなど各ページにつながりをもたせる工夫をしている学生もいた。

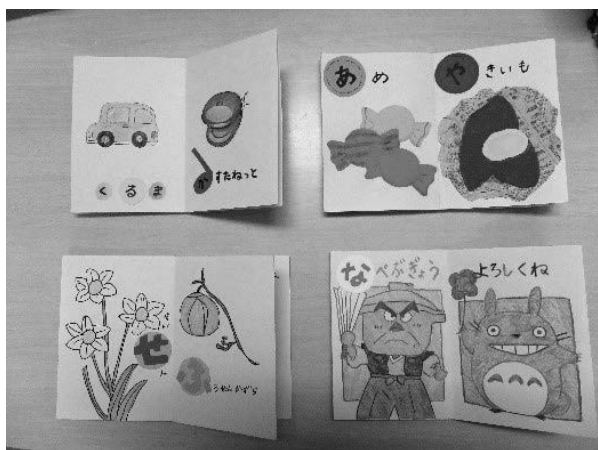


図1 学生の作品 I



図2 学生の作品 II

ウ 「自己紹介ミニミニ絵本」について、最終授業の振り返り

「自己紹介ミニミニ絵本」を印象に残ったと回答をした学生の記述は、次のとおりである。

- まず、自分の名前の頭文字がついているものを見つ

けるのが大変でした。見つかっても画用紙などで貼っていくのも大変でした。始めは本当に上手に完成までとり着くか不安でした。でもだんだん形になっていく絵本を見るたびに達成感や子ども達が見てどんなアクションを取ってくれるだろうかとワクワクとした気持ちになりました。一番手を込めた作品なので心に残っています。

- 表紙を特にこだわりました。ポケットを作って、名前のところで書いた食べ物を画用紙で切って、ポケットに入れました。子供は、ただの絵本ではなく、何か仕掛けがあったり取り出せるものが好きだったりと思ってこのようなポケットを付けました。今までいっぱい考えて作品を作る機会がありませんでしたが、この授業を通して、「子どもはどんなものが好きかな」や「子どもが注目してくれるものはどんなのだろう」と考える機会が増えました。生活していく中でも、どのようなものが好きなのか、しっかり考えていき後期の授業でも生かしていきたいです。
- どんなものがあるのか、また、どんなものなら喜んでくれるかと想像を膨らませて絵を切ったりしながら楽しむことができました。
- 自己紹介絵本はとても難しかったです。自分の名前の動物や食べ物、キャラクターなどたくさんの作品を作っているのを見て、面白いと思いました。
- 自分の名前を自分の顔の表現で自己紹介をするという作品が気に入りました。絵もかわいく描けたのですが、顔の回りの効果音などに自分の好きな組み合わせの色を塗ることでもっとかわいさがアップしたのになって思い、私は気に入りました。
- 私は自己紹介するときのテーマを「アニメキャラクター」にして作りました。定番のアニメキャラクターもいれば、なかなか名前が見つからず、今どきの子どもは知っているかどうか不安でした。アニメキャラクターの絵の後ろに色とりどりの背景を描いたり、似ている色を使って文字を書いたり工夫しながら自分の納得のいく作品が完成することができました。
- 自分の好きな食べ物で名前の絵本を作るというのは初めてだったので、絵心やデザイン性などが評価されるけど、自分の中ではいいものできたと思います。
- 3時間かけて作ったというものもありますが、すごく満足のいくものになりました。すべての絵を丁寧にかけ、上手にできたと思うので自信ができました。中でも、ラーメンが一番上手に再現できました。

<考察>

- 最終授業の振り返りでは、「自己紹介ミニミニ絵本」の制作について、「大変でした」「不安でした」「難しかったです」と取り掛かりの時の素直な気持ちが表現されていた。作品が仕上がっていく過程では、「絵本を見るたびに達成感や子ども達が見てどんなにアクショ

ンを取ってくれるだろうか、ワクワクとした気持ちになりました。」「どんなものなら喜んでくれるかと想像を膨らませて、絵を切ったりしながら楽しむことができました。」と、子どもが関心を示す姿、喜ぶ姿を想像しながら、前向きに取り組んだことがうかがえる。制作の終わりには、「一番手を込めた作品」「子どもはどんなものが好きかな」や「子どもが注目してくれるものはどんなものだろうと考える機会が増えました。」「私は気に入りました。」「自分の納得のいく作品が完成することができました。」「自分の中ではいいもののができたと思います。」「自信ができました。」など、自分なりに作品を完成させたことに対して充実感や満足感を味わっていることが分かった。制作を通して少しずつ自信をもち、自己肯定感が少しずつ高まってきていることがうかがえた。

- ・「表紙を特にこだわった。ポケットを作って、名前のところで書いた食べ物を画用紙で切って、ポケットに入れた。」「顔の回りの効果音などに自分の好きな組み合わせの色を塗った。」「アニメキャラクターの絵の後ろに色とりどりの背景を描いてみたり、似ている色を使って文字を書いたり工夫」など、制作の過程で、子どもに紹介したときにより理解が深まるように、考えたことを自分なりに工夫しながら表現を楽しんでいたことが分かった。
- ・「自己紹介ミニミニ絵本」の制作時間を十分確保したことで、学生が、じっくりと制作に取り組み、不安や困難に向き合い、それを乗り越えて絵本を完成することができた。そのことが、一番印象に残った授業となったと思われる。
- ・「自己紹介ミニミニ絵本」は、他の学生を真似たり、同じようにしたりなど、人と比べる意識をもつことなく取り組める制作だった。自分の名前という固有のものを作品にしていく制作に取り組むことにより、自分らしさを表現することにつながった。
- ・制作を始める前に、先輩の作品をスライドで紹介した。食べ物、昔話などをテーマに、工夫のある内容となっており、イメージを膨らませて参考にする姿が見られた。
- ・次の授業の時、当日の課題を早く終えた学生が他の学生の「自己紹介ミニミニ絵本」を手に取り見ることができるよう、机に並べて置いた。しかし、他の学生の作品にはあまり関心を示さなかった。課題に一生懸命に取り組んでいたとも言えるが、自分自身が作品を仕上げ、自分の作品に満足しきってしまったのではないかと思われた。

Ⅳ ま と め

図画工作に対して、また、自分自身の表現に対して「好きではない」「自信がない」と感じていた学生が、授

業を重ねる中で「楽しい」と変容する姿から、どのような授業を展開していくことが必要であるか、また、その内容はどのようなものであるか考えた。最終授業の振り返りから、多くのヒントを得たように思う。

「楽しい」と感じるためには、十分に考えたり悩んだり工夫したりできる時間、互いの表現を肯定し合える空間、夢中になって取り組めるような環境や授業内容などがあげられる。時間に追われる中では、十分に課題に向き合うことができず、困難を乗り越えて最後まで仕上げ満足感や充実感を味わうことができない。十分に考えたり試したり工夫したりできる、ゆったりとした授業計画が必要である。また、授業の中で、「上手」「下手」という評価でなく、一人一人の考えや気付きを認め合える雰囲気や日頃からつくっておくことや、自分なりの発想や考えを安心して見せ合える関係づくりをすることも大切であることが分かった。さらに、一人一人の発想を十分に発揮できる魅力のある授業内容を計画することの必要性を感じた。そのためにも、教材研究、教材開発を日頃から積み重ねることが必要である。

図画工作への苦手意識が「楽しさ」に変わるためには、技法を身に付けることも大切である。基本的な技法のフロッタージュ、スクラッチ、コラージュなどを体験し、楽しさを味わうことで表現への自信を少しずつもつことができるようになっていた。また、いろいろな技法を用いて「楽しさ」を味わうことで、実習や保育者になったときに幼児にも伝えたいという気持ちをもっていた。様々な技法を経験できるようなシラバスの作成が必要である。

一番印象に残ったとの振り返りが多かった「自己紹介ミニミニ絵本」づくりでは、先輩の作品を紹介した。他の学生の表現に触れる機会をもつことで、いろいろな素材を知り親しんだり、表現の方法を工夫したりするなど、豊かな表現につなげていくことができた。たくさんの作品に触れる機会を設けていきたい。

図画工作に「苦手意識」をもっていた学生が、授業を通して「楽しさ」を味わい、そのことが実習に向かう姿勢や将来保育士になったときの自分の姿を想像することにつながっていた。授業を通していろいろな表現の方法を知り、「楽しさ」を味わう経験の積み重ねが、自信をもち自己肯定感を高めることにつながっていくことを実感した。

また、表現の「楽しさ」を知ることは、将来保育者となったときに、子ども自らの表現を受容し、意欲を高め表現の「楽しさ」を共有する保育者へと成長できると考える。

要 約

図画工作の授業に「苦手意識」をもつ大学生が、授業を受けて「楽しい」と感じるできるようになった

要因について、授業の振り返りシートから考察した。また、印象に残った授業の魅力を探った。

十分な時間の確保、互いの表現を肯定的に受け止めることができる雰囲気、基本的な技術の獲得が必要である。また、表現の「楽しさ」を味わうことができる授業内容も重要である。

引用文献

- 1) 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館 72頁
- 2) 1) に同じ 73頁
- 3) 1) に同じ 233頁
- 4) 文部科学省 「小学校学習指導要領」平成29年告示 東洋館出版社 21頁
- 5) 4) に同じ 134頁

Summary

From the class review sheet, I considered the factors that made it possible for university students who are not good at art education classes to feel “fun” after taking the class. I also explored the appeal of the lessons that left an impression on me.

It is necessary to secure sufficient time, an atmosphere that can positively accept each other’s expressions, and acquire basic skills. It is also important to have lesson content where you can enjoy the “fun” of expression.